

かわちおんど【河内音頭】

河内音頭（かわちおんど）は、大阪府下北-中河内地域を発祥とする伝統的な河内音頭、及びその音頭をアレンジさせたもの。大阪では河内地域以外でも盛んに盆踊りなどで踊られ、その曲目は全国的に愛聴されている。

江戸期から北河内交野地区、中河内八尾周辺、また南河内でもそれぞれ歌われていた土着の音頭・民謡、浄瑠璃、祭文といった庶民の芸能と仏教の声明が長い時間をかけて混ざり合い改良されて成立した。

盂蘭盆会、地藏盆の時期に盆踊り歌として歌われるが、元来は亡くなった人々の魂の鎮魂歌であり現世に回帰した際の靈魂をもてなす意味が含まれ、仏教とは切っても切れない経緯がある。尚、伝統的な祭文音頭と、今日一般的に知られている現代の河内音頭とでは節回し(曲調)が大きく異なる。

明治初期から北河内一円で活躍した『初代歌亀』を名乗る音頭取りが、それまで短調で唄われていた音頭を偶然部分的に長調で唄いだしたのが現在の河内音頭の原型とされ、成立は明治中期と推定されるが、はっきりしたことは諸説あり不明。大正～昭和初期に録音されたSPレコードなどに残されている『正調河内音頭』は極めて現在の交野節・江州音頭などに酷似した節を取っている。大正末期頃まで近畿地域で盛んに歌われ、踊られていたのは、滋賀の東近江（八日市）発祥の音頭である江州音頭や、伊勢の伊勢音頭であった。江州音頭は明治中期頃に千日前界限の寄席では落語や音曲と並んで人気の演目となり、大正中期には平野節の初音家太三郎（初音家初代宗家）が登場、従来唄われてきた河内音頭を大幅にアレンジして現在に繋がる節回しやお囃子が誕生した。この太三郎の編み出した新しい河内音頭も寄席の演目として人気を博すようになり、寄席小屋で興行として演じられる様になると、益々江州音頭や浪曲などの諸芸と融合・影響を受け、河内音頭が飛躍的に変革・発展を遂げていく。その後昭和中期頃まで河内音頭は衰退の時代が続いていたが、1961年にテイチクから発売された鉄砲光三郎『鉄砲節河内音頭シリーズ』が累計出荷数100万枚を超える大ヒットとなり、再び全国的にその知名度を広げた。

エーさては一座の皆様へ、ちょいと出ました私はお見掛け通りの若輩で ヨーホーホーイホイ
(ハァーイヤコラセードッコイセー)

まかり出ました未熟者、お気に召すようにや読めないけれど、七百年の昔より、
唄い続けた河内音頭に乗せまして、精魂込めて唄いましょ

(ソーラーヨーイトコサッサーノヨイヤサッサ)

エーイ 大和河内の国境、中にひときわ悠然と ヨーホーホーイホイ
(ハァーイヤコラセードッコイセー)

そびえて高き金鋼山よ、古き昔の人々が、ご先祖供養の盆踊り、今に伝えた民謡を
河内音頭と申します、聞いておくれよ荷物にやならぬ、聞いて心もうきうきしゃんせ

気から病が出るわいなあ 唄の文句は小粋でも 私しゃ未熟で、とつてもうまくも、きっちり実際、
誠にみごとに読めないけれど、八千八声のほととぎす、血をはくまでもつとめましょ、

(ソーラーヨーイトコサッサーノヨイヤサッサー)

■当面の活動予定**八尾河内音頭まつり支援**

集 合：9月7日(日) 15:00 久宝寺緑地（陸上競技場・軟式野球場）

持 ち 物：カブ弁当

活動内容：15:00～20:00 八尾七・八団でブース運営（割り箸鉄砲まと当て！）

スカウトの日

集 合：9月14日(日) 11:30 心合寺山公園

持 ち 物：カブ弁当

活動内容：各団で関所をつくり関所巡りで盛り上がる！

八尾七団育成会臨時総会

集 合：9月23日(祝) 13:00 南高安コミセン

議 案：教育規程改定に伴う上進変更(10月→4月)、登録費団費値上げ、RS隊活動費全面カット
女子スカウト加盟について、他

東阪地区50周年記念レセプション

集 合：10月25日(土) 18:30 石切ホテルセイリュウ

会 費：ほんまかいなの3,000円ポッキリ 明朗会計

■Coming soon**八尾七団育成会臨時総会**

10月19日(祝)